

よれたれば、今年は豊作なるべしとて、また田家のかたにわたらせ玉ひ、あれ見よ農家の小兒いづれもつやよく肥ふどりしは、母なる者の食多く、あくまで乳をのみたればなり、また百姓の家毎に去年の芋を埋置しをほり出さるをみても、食物の多きを考るにたれり、いづこもくゆたかなるゐなかの様かなと、御喜色をあらはし玉ひしかば、陪從の諸臣、農家のことまでかく至り深くましくける事よと感じけるとなり、

〔著作堂一夕話上〕富士の農男并淺間の辯 享和壬戌夏五月、囊を擔杖を曳、ゆきくて駿河の府中にあそぶ、彼地の人の説に、四五月のころ、富士の雪や、消残たるが、寶永山の邊、凹なるところに、人の形のごとく雪の殘ることあり、これを農男と名づく、この殘雪見ゆる年もあり、又みえざるとしも有、田子の土人云、農男見ゆる年は、かならず五穀熟すと。○下

〔松屋筆記六〕曆に黒日多き年は豊稔、黒日少き年は凶作、或人の説に、曆に黒日多年は必豊稔にて米價卑し、黒日少き年は凶作にて必米價貴し、黑白は民間耕作によしある日にや、御代官を叙せらるゝ日は必黒日也といへり、さもあることにや、文政十一子年、曆の黒日少して凶作、米價甚貴く、同十二丑年は黒日多して、米穀豊なりき。

〔農隙餘談〕世上竹枯、又は人の目に立程、鳥畜類山中林木に死する事多き年は、饑饉近きと知るべし、大山の鳴動、海あらく打上ダば、畠惡し、と知るべし。

〔農業自得上〕豐凶 豊凶の目當は、其國其里々に皆あるもの也、予○下野河内郡 田村仁左衛門 在所近邊は、彼岸に鳥卵を産む年は、豊作なり、不須の年は巣を始ても止るなり、おくるゝ年は違作なり、依て皆目當あるものなれども、心付ざれば有て無きも同様なり、又百日紅と云はだが木あり、又さるすべりとも言、此木寺宮城の邊にある木なり、此花は夏の土用より秋の土用前まで咲花なり、違作年には咲かぬる花なり、合歡木、つゝじ等の花も、多く咲は豊作の前表なり、皆諸鳥草木に至る迄、早